

2018.1/17 (水)

成功するテレワーク

文教大学 経営学部経営学科 4年 石塚ゼミ

B4R11063 合田裕美

テレワークという言葉を知っているだろうか。テレワークとは、簡潔に言えばオフィス以外で仕事を行うことである。私は在宅勤務という働き方が理想だった。今年就職活動をしていてよりその理想と現実のギャップを目の当たりにしてしまい、就職活動を辞めなくなったこともあった。なにより、在宅で行える仕事とは自営業のイラストレーターであったり、普通のサラリーマンのする在宅の仕事とは家に持ち帰った仕事程度なのだと漠然と考えていた。しかし、偶然にも内定先が社員を大事にしていることが感じられる会社であったため、在宅勤務を含むテレワークについてのテーマにしようと考えた。

テレワークとは何も在宅勤務だけの事を指すわけではない。現在は ICT の発展により、モバイルワークと呼ばれる「モバイル機器を利用して特定の場所に依存せずに業務を行う」形態もある。また、サテライトオフィスという元々のオフィス以外の場所、多くは地価の安価な都市部以外で社員を集め通勤時間を短縮するという形態もあった。しかしサテライトオフィスは現在ではあまり行われていない様である。その理由とは前述した ICT が関係している。ICT の発達により個人が持つ情報端末のグレードが上がり、在宅やモバイルワークという形でテレワークを行えるようになったことでサテライトオフィスは減少していった。

本題の「成功するテレワーク」だが、定義を自分で示すことから始めた。定義が曖昧なままだと、堂々巡りの考えになってしまうからだ。今回私が示した定義とは「男性・女性関係なく、ライフイベントに左右されることなく働きやすい環境づくりのためのテレワーク」とした。この理由として、近年では共働き家庭というのも珍しくない中保育所がないことにより職場復帰ができない母親というニュースが話題になっていた。そこで働きやすい環境、そして男女ともに働きやすい環境とはいったいどのようなものか、その中でライフイベントというものが仕事にどのような影響を与えるのかという部分から考えていきたかったからである。

これから私達が就職していくにあたり、将来に関しての不安は尽きない。少子高齢化、年金、大企業でも過剰労働を苦しめての自殺というニュースもあり明るい未来とは言えないのではないだろうか。このような環境をただ傍観するだけでなく、少しでも働きやすく生きやすい世の中というものを考えてみたくなった。論文を通して推察を進めていき、結果として得られたものは大きかったように思う。